

# 小学道徳 生きる力

教科書・指導書をフル活用!!

## 子どもが生き生きとする 道徳授業をつくる

森岡 健太 著



日文のWebサイト

日文 🔍



心が動く、その先へ。

日本文教出版

# はじめに

## 「教科書」と「指導書」さえあれば怖くない！

「道徳の授業って、難しいですね……。」

私の周りでよく聞こえてくる言葉です。みなさんも耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

なぜ、道徳の授業が難しいと感じるのでしょうか。そこにはいくつかの理由が考えられます。

- ① どのような学習をすればよいか分からない
- ② どうやって学習を進めればよいか分からない
- ③ 話し合いを活発にすることが分からない

まず、「① どのような学習をすればよいか分からない」について。これに関しては、教科化されて以降、かなり減ってきたのではないのでしょうか。なぜなら教科書が登場したからです。以前は、「どのような資料で、どうやって学習を進めればよいのだろう」と悩んでいましたが、現在は教科書がありますので、教科書を活用すればこの問題はクリアできます。

次に、「② どうやって学習を進めればよいか分からない」について。これに関しては依然として問題があるでしょう。教科書を使っても、学習の進め方に悩むケースです。これについては指導書（正式な名称は「教師用指導書」ですが、ここではよく使われる指導書と表記します）を活用することで解決できます。

指導書には見る際のポイントがあります。そのポイントさえ押さえておけば、学習の進め方が分かってきます。この点に関してはあとのページで紹介します。

最後に、「③ 話し合いを活発にすることが分からない」について。ここが最大の難関と感じるかもしれません。ただ、話し合いが活発になるかどうかは、実は「ちょっとした工夫の積み重ね」で解決できることが多いのです。「場面絵・顔絵（挿絵）の活用」「ねらいに沿った展開や発問」「子どもが意見を言いたくなるような板書」などの積み重ねが大切です。これについても後ほど、詳しく解説します。

道徳の授業では、自分でおもしろい教材を開発するという醍醐味もありますが、教科書や指導書を使うだけでも十分におもしろい授業をすることができます。

本書では、ちょっとした工夫や工夫、ノウハウをお伝えしますので、「これは使える！」と感じたものをどんどん授業に取り入れてみてください。

大丈夫です！ 道徳の授業はあなたが思っているほど、難しくはありません。教科書と指導書を使って、思いっきり道徳の授業を楽しみましょう。

### プロフィール

森岡 健太（京都市立小学校教諭）

初任の頃の公開授業（道徳）の失敗をきっかけに市の道徳教育研究会に入り、道徳の授業をおもしろくするための研究を続けている。日本道徳教育学会会員。『おもしろすぎて授業したくなる道徳図解』『森岡健太の道徳教材研究ノート』『森岡健太の道徳板書』（以上、明治図書出版）ほか著書多数。



### もくじ

はじめに 「教科書」と「指導書」さえあれば怖くない！

#### 第1章 基本編 「教科書」のここがすごい！

- 1 教科書を使いこなすには？ ..... 2
- 2 教科書に込められた意図とは？ ..... 4
- 3 発問の基礎・基本を知ろう！ ..... 6
- 4 場面絵・顔絵は重要アイテム！ ..... 8

#### 第2章 基本編 「指導書」のここがすごい！

- 1 指導書を使いこなすには？ ..... 10
- 2 「ねらい」を意識して授業を考えよう！ ..... 12
- 3 「山場」を意識した授業とは？ ..... 14
- 4 板書は「みんなのノート」である！ ..... 16

#### 第3章 実践編 さあ、やってみよう！

- 1年 どうしてかな ..... 18
- 2年 およげない りすさん ..... 20
- 3年 まどガラスと魚 ..... 22
- 4年 いじりといじめ ..... 24
- 5年 うばわれた自由 ..... 26
- 6年 カスミと携帯電話 ..... 28

#### 第4章 応用編 「教科書」をもっと使いこなそう！

- 1 子どもたちの思考を「ぐっと深める」！ ..... 30
- 2 使える！デジタルコンテンツ ..... 32
- 3 コラム「心のベンチ」は学びの宝庫！ ..... 34
- 4 別冊「道徳ノート」で学びを振り返る！ ..... 36

おわりに 先生らしい楽しい授業を！

# 1 教科書を使いこなすには？

小学校で、道徳科の学習指導要領が2018（平成30）年度より全面実施されてから、教科書は2回改訂されました。さて、みなさんは、教科書を上手に活用できているでしょうか。

道徳が特別の教科となるまでは、副読本や文部科学省の資料などを活用して授業を行っていましたが、現在は教科書を主たる教材として使用しています。

ここで、あらためて教科書を活用する意義について考えてみたいと思います。

**【教科書を活用する意義】**

- ① 授業の標準化
- ② 体系的な学び
- ③ 指導のしやすさ

## 1 授業の標準化

教科書ができたことで、全国どこでも一定の水準で授業を行うことができるようになりました。

また、指導書の中身も充実し、副読本などしかなかった時代に比べて、教材研究が格段にしやすくなりました。

**特におすすめしたいのが、デジタルコンテンツの活用です。** 今回の改訂より、指導書の研究編を購入すると、「指導者用デジタル教科書（教材）」、「朱書・板書編」とそのデジタル版などが使えるようになりました。あとのページでも紹介しますが、これにより教材研究を手軽に行うことができるようになりました。

## 2 体系的な学び

教科書を活用して授業を行うと発達の段階を見通した体系的な学びが可能になります。

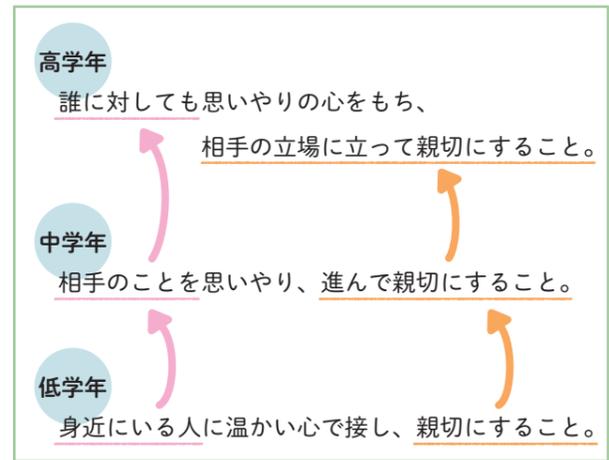
義務教育において、小学校では6年間、中学校では3年間の計9年間、子どもたちは道徳を学習します。

そこで、子どもたちの発達の段階に合わせて適切な内容の教材が用意されているのが教科書です。

ここで、内容項目に着目してみましょう。『小学校学

習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』には、発達の段階に応じて内容項目が詳しく解説されています。

当然のことながら、発達の段階に応じて、内容項目の中身も、より高次なものとなっていきます。「B 親切、思いやり」の内容項目を例に見てみましょう。



①内容項目「B 親切、思いやり」低・中・高学年の違い

低学年の段階では「身近にいる人」となっているところが、中学年では「相手のこと」、高学年では「誰に対しても」というように行為の対象の相手が広がってきているのが分かります。

「親切」という行為そのものについても、より高次なものになっています。

低学年では単に「親切にすること」だったものが、中学年では「進んで親切にすること」、高学年では「相手の立場に立って親切にすること」となっています。

このように、行為の対象や行為の中身が体系的に設定されています。そして、学習指導要領の示している内容をねらいとして設定し、教材化しているものが教科書です。

つまり、教科書の教材を用いて、指導書に書かれたねらいを理解したうえで授業を行うと、学習指導要領に書かれている中身が、自然と達成されることとなります。

## 3 指導のしやすさ

教科書は、どの学年のどの教材も基本的に同じ構造になっています。主要要素を見てみましょう。

まず、教材のはじめのページには、フクロウの「ココロウ」が【導入】の発問で教材に入り込むために役立つことなどを話しています。

また、冒頭には【リード文】が載っており、本時の学習に見通しをもつことができます。道徳の授業では、教材を理解することそのものではなく、教材を理解したうえで自分の経験をもとに話し合うことが目的ですので、この【リード文】も積極的に活用していきましょう。

そして、教材の最後には、【考えてみよう】と【見つけよう・生かそう】の2つの発問例が載っています。

【考えてみよう】は、教材のねらいに迫るためにいち



②教科書5年「2 あいさつの心」p.10～13

**【考えてみよう】（中心発問）**  
教材を通していちばん考えを深めてほしいところが載っています。

**【見つけよう・生かそう】**  
教材を通して気づいたことや考えたことから、自分ごとへとつなげるための発問です。ここをじっくりと考えることで、自分の生活に生かすことができます。

**【導入】**  
子どもに自分の経験を思い出させ、問題意識をもたせるなどの効果があります。

**【リード文】**  
読むことで、話し合うポイントが分かり、見通しをもつことができます。

**【教科書 QR コンテンツ】**  
この二次元コードから教科書 QRコンテンツ（学習者用デジタルコンテンツ）へアクセスできます。

ばん大切な発問である中心発問です。授業では、この中心発問を考える時間をたっぷりと確保したいものです。

【見つけよう・生かそう】は、教材を通して気づいたことや考えたことを確かめ、自分ごとへつなげて生かしていくための発問です。ここを大切にすることにより、道徳の授業が「単なる知識」から、「生きた道徳」へと変わっていくことになるでしょう。

このように、教科書には、【導入】、【リード文】、【考えてみよう】（中心発問）、【見つけよう・生かそう】がセットで載っているため、指導がしやすくなっています。

加えて、本文だけでなく挿絵が豊富に掲載され、教材の中身が理解しやすいのも教科書の特長です。

ぜひ、教科書をじっくりと読み込んで、すみずみまで余すところなく活用してみてください。



**【リード文】**  
読むことで、話し合うポイントが分かり、見通しをもつことができます。

**【導入】**  
子どもに自分の経験を思い出させ、問題意識をもたせるなどの効果があります。

**【教科書 QR コンテンツ】**  
この二次元コードから教科書 QRコンテンツ（学習者用デジタルコンテンツ）へアクセスできます。

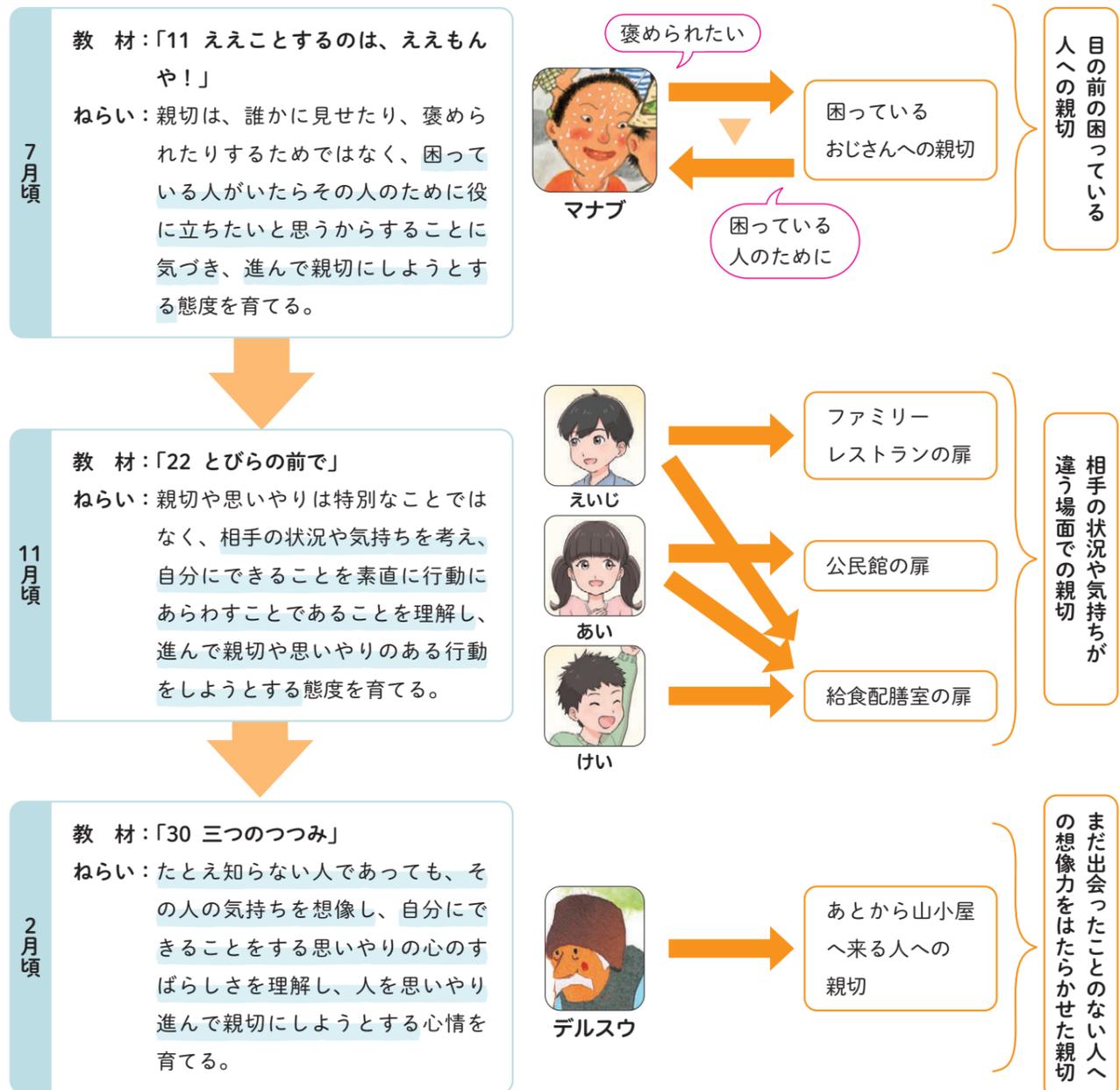
## 2 教科書に込められた意図とは？

前のページでは、学年ごとの発達の段階によって、指導内容が変わってくることを確認しました。

ところで「同じ学年の中の同じ内容項目の教科書でも発達の段階によってねらいが異なる」ということをご存じ

でしょうか。

4年の「B 親切、思いやり」を例に、行為の対象や中身がどのように変わるかを確認していきましょう。



### 解説

このように3つの教材のねらいを並べてみると、違いが明確になり、おもしろいです。

1つ目の教材、「ええことするのは、ええもんや！」では、マナブが、車いすに乗っているおじさんが困っているところに遭遇します。「目の前に困っている人がいるから親切にする」というような、対象が限定された親切となります。行為の中身としては、最初は「褒められたいから」という動機で親切が始まります。そこから物語の終盤で、「親切にすることそのもののよさ（ボランティアのよさ）」に気づくという構成になっています。

2つ目の教材、「とびらの前で」では、主人公たちがそれぞれの場面で、どのような親切ができるのかを考える教材となります。「扉を開けて相手に譲るところを見るえいじさん」「ベビーカーを押している母親に扉を開けるあいさん」「給食配膳室のところで、低学年に譲る3人」と、それぞれ行なっている親切の状況や中身が変わってきます。相手の状況や気持ちに合わせて親切の行為が変わるということをつまえる構成となっています。

3つ目の教材、「三つのつつみ」では、デルスウが山小屋で、次に来る人のために、塩、お米、マッチの3つをそれぞれ包みに入れて用意します。まだ出会ったことのない人への想像力をはたらかせた親切ということになります。

親切の行為の対象や中身が、教材によって変わってきていることが見て取れました。子どもにとっては、「目の前にいる人への親切」→「状況によって変わる親切」→「まだ知らない人への親切」という教科書に掲載されている順番で学習していくほうが分かりやすいでしょう。

もし、学習する教材の順番を入れ替える場合には、「ねらいが違う」ということに留意してください。

教科書には、ほかにも、このようなポイントがあります。

**いじめ防止ユニット「人との関わり」**  
 年間3回、毎学期に設定されています。

**オリエンテーション「道徳のとびら」「道徳の学び方」**  
 巻頭には、この1年間で学ぶことと、学び方がセットで示されています。

**コラム「心のベンチ」**  
 子どもたちが自分で読んでも理解しやすい内容となっています。いじめ防止ユニット「人との関わり」とテーマ「情報モラル」では、このコラムが関連する教材とセットで示されています。(→本冊子 p.34~35)

**ぐっと深める**  
 「ぐっと深める」がついた教材です。指導をする際の参考にしてみてください。(→本冊子 p.30~31)

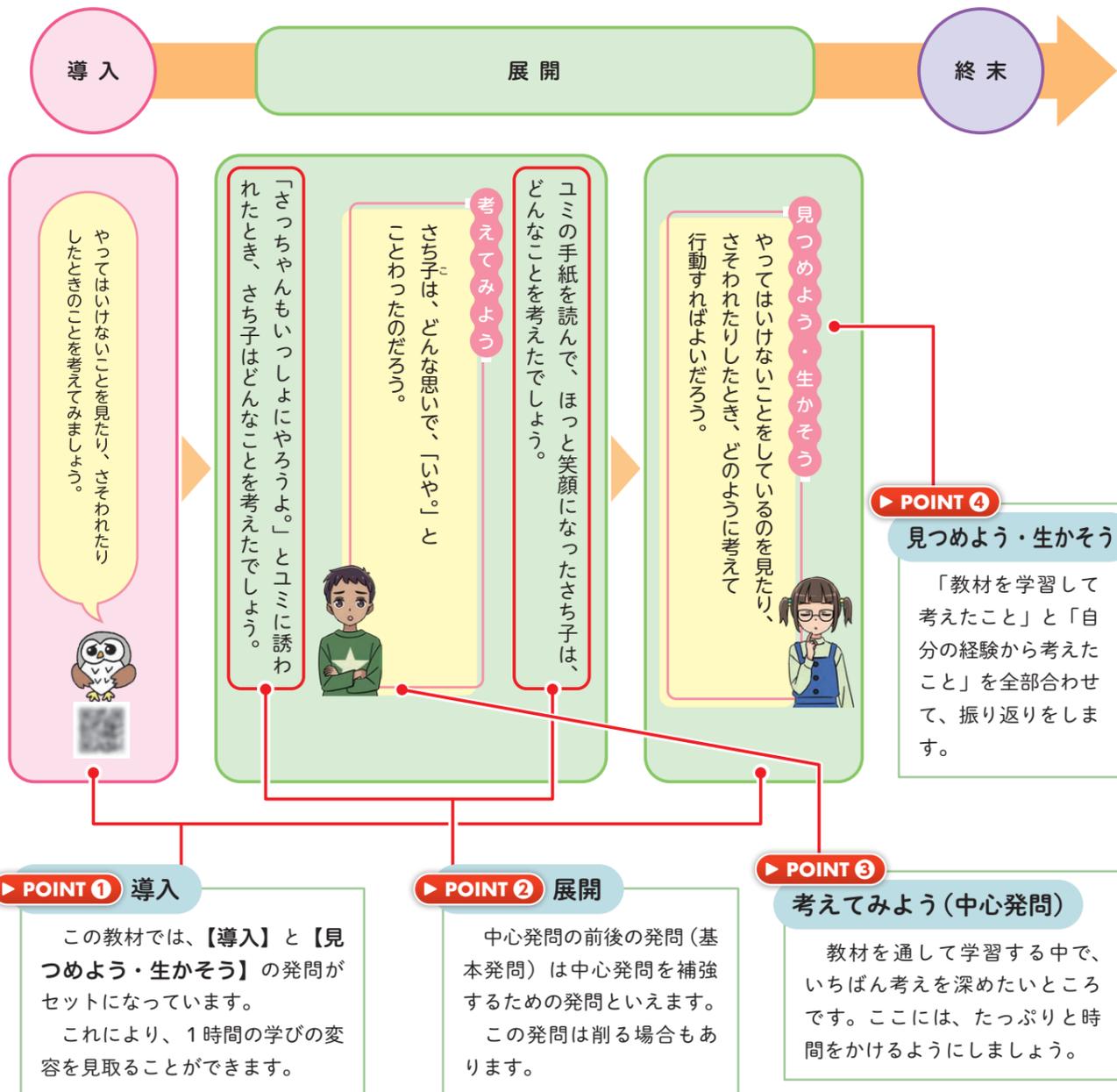
単元	ページ	内容
安全な暮らし	16	ほんとうに上手な乗り方とは
心のベンチ	78	インターネットの向こう側
しょうほうモラル	15	交流学習の前に
人との関わり①	14	マルガレテー・シュタイフ・ティヘアを作った人
	13	家族の一員として
	12	ぼくの草取り体験
	11	ええことするのは、ええもんや！
	10	雨のバスでいりゅう所
	9	いのりの手
	8	決めつけないで
	7	ちこく
	6	あなたの時間にいのちをさげなれば
	5	さち子のえがお
心のベンチ	24	世界の国々の「子どもの日」
	4	ブルラッシュ
	3	小さな草たちにはく手を
	2	あいさつがてきた
	1	目覚まし時計
	◆	道徳の学び方
	◆	道徳のとびら

# 3 発問の基礎・基本を知ろう！

1時間の学習の中で、どのように発問を組み込み、授業を展開しているのでしょうか。それぞれの発問の関係性を

整理して、発問を有効に行う方法を考えていきましょう。発問について整理したものが下の図になります。

## 授業の流れ 4年「5 さち子のえがお」の例



### POINT 1 導入

導入では、自分の経験を想起できるような発問をしていきましょう。そうすることで、教材の中身をより自分ごととして考えることができます。

時にはアンケートを使うことも有効です。左ページの場合だと、「①やってはいけないことを見たり、誘われたりしたときには注意するのが大切だと思いますか」「②実際に注意することができましたか」などの2段階の設問でアンケートを実施します。そうすることで、「やってはいけないと認識しながらも、注意することができなかった」ということが浮き彫りになるでしょう。

導入で発問したことは、展開の段階でもう一度問うようにしていきます。そうすることで、教材を通してどのように思考が変容したかを見取ることができます。子どもはもう一度問われることで、学びを自覚することができます。

### POINT 2 展開

中心発問以外の発問は、中心発問をより効果的にする役割があります。また、子どもの思考を深め、授業を展開しやすくするために設定しています。

例えば、左ページの場合、『さっちゃんもいっしょにやろうよ。』とユミに誘われたとき、さち子はどんなことを考えたでしょう。』という発問は葛藤の中身を考える発問となっています。ここで葛藤の中身を考えることによって、中心場面でさち子が「軽々しく断ったのではない」ということに気づけるはずです。

「ユミの手紙を読んで、ほっと笑顔になったさち子は、どんなことを考えたでしょう。」という発問は、中心場面で断ることができたことのよさについて考えています。この発問から子どもは、「やってはいけないことを見た際には、見て見ぬふりをしないというよさ」に気づくことができます。

このように、上記2つの発問の間に中心発問を挟むことによって、中心発問がより効果的になるようにしています。授業の展開によっては、これらの発問を削り、中心発問でのやり取りで子どもの思考を深めるといったことも考えられるでしょう。

### POINT 3 考えてみよう（中心発問）

教材を通していちばん思考を深めたいところを問うのが中心発問となります。ここには、たっぷりと時間をかけるようにしましょう。

今回の教材の場合では、役割演技を取り入れる方法もあります。「いや」と言って断る場面を演じ、そのあとに「さち子は、どういう思いで断ったか」ということを子どもにインタビュー形式で尋ねていきます。

中心発問をする場面では、「問い返し発問」をするなどして、思考を深めることを意識していきます。「さち子は断ったけど、『欲しい』という思いは完全に消えたのかな」「断るときに『友達関係が悪くなる』って思わなかったのかな」などと、子どもの思考を揺さぶるような問いかけをしていきます。

### POINT 4 見つけよう・生かそう

「見つけよう・生かそう」は、自分の学びを言語化して、自己のよりよい生き方に生かそうとするための発問です。ポイントとしては、「教材の中身の振り返りに終始しない」ということに気をつけましょう。

例えば、「さち子は、迷いながらも最後に断れてよかったと思う」などの振り返りだと、教材に対する感想で終わってしまうことになります。

そこで、「お話全体を通して、正しいと思ったことを行うには、どんなことが大切だと考えたか」などを振り返っていきます。

ただし、教材の感想を書いてはいけない、ということではありません。「さち子は、迷いながらも最後は断れていた。自分もさち子のように迷ったとしても、正しいと思ったことはやり通したい」というように、教材から考えたことを自分の生活経験に結びつけて考えられると理想的です。

### 終末

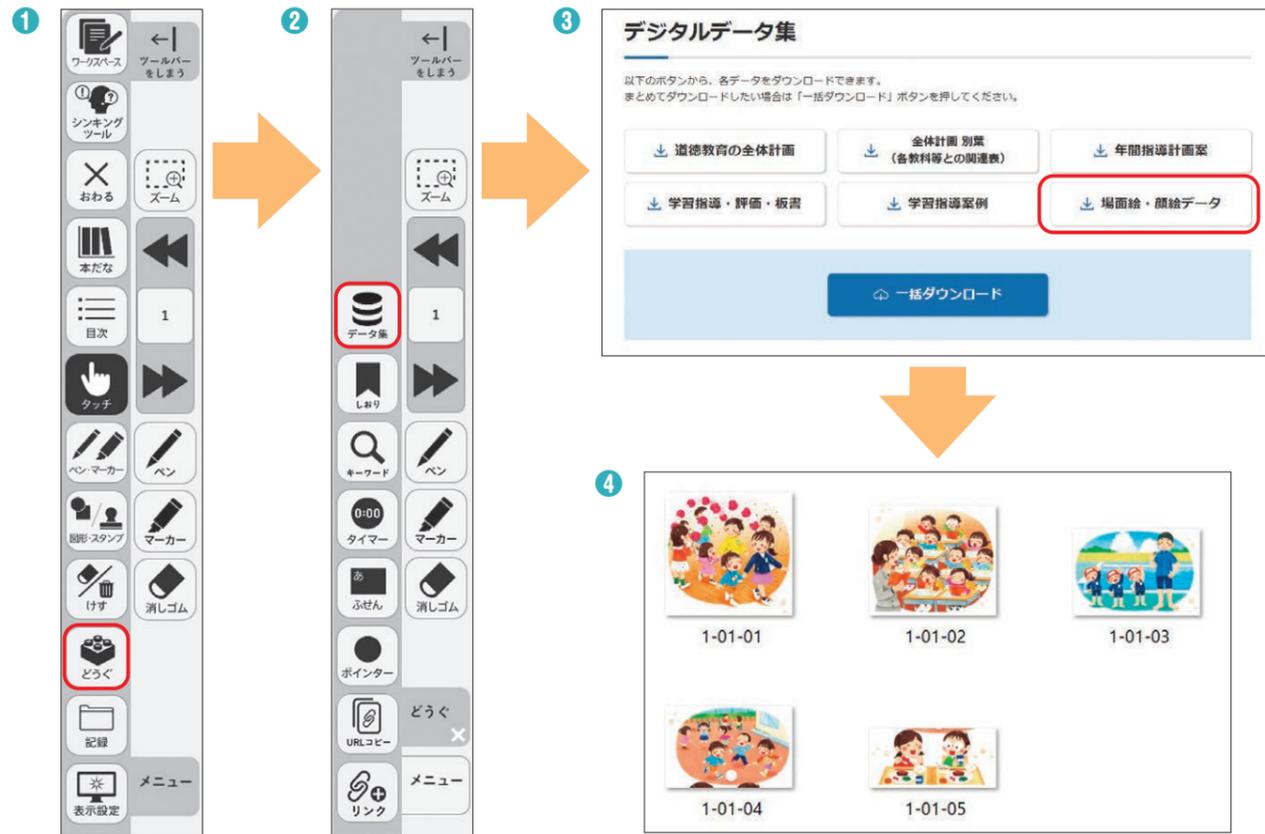
終末では、オルゴールを流しながら雰囲気をつくって、学習したことに関連する詩を読んだり、教師自身の体験や思い出を語ったりするなど、余韻を残して終えるのもおすすめです。

# 4 場面絵・顔絵は重要アイテム！

場面絵・顔絵（挿絵）が本当に使いやすくなりました。副読本しかなかったときは、場面絵・顔絵を印刷するためには、コピーにコピーを重ねて拡大するしか手段がありませんでした。

しかしまでは、『指導者用デジタル教科書（教材）』から、場面絵・顔絵の印刷もすぐできるようになりました。これを有効に活用しない手はありません。では、場面絵・顔絵の印刷方法と活用方法を確認していきましょう。

## 「場面絵・顔絵データ」のダウンロード



指導者用デジタル教科書（教材）の、

- 1 ツールバーの中にある、「どうぐ」のアイコンをクリックします。
- 2 「データ集」のアイコンをクリックします。

- 3 「デジタルデータ集」の中の「場面絵・顔絵データ」のボタンをクリックすると、該当学年分のデータが一括でダウンロードされます。
- 4 教材ごとにフォルダ分けされているので、必要な場面絵・顔絵を印刷します。

※デジタルデータ集には、ほかにも活用できる資料がたくさん用意されています。ぜひチェックしましょう！

さて、黒板に場面ごとに貼っていくことだけが、場面絵・顔絵の活用というわけではありません。場面を比較したり、登場人物の関係性を整理したりと、活用方法はたくさんあります。また、場面絵・顔絵の活用というと

低学年を思い浮かべがちですが、高学年でも教材に対する理解や気づき促されることがありますので、積極的に活用してみてください。

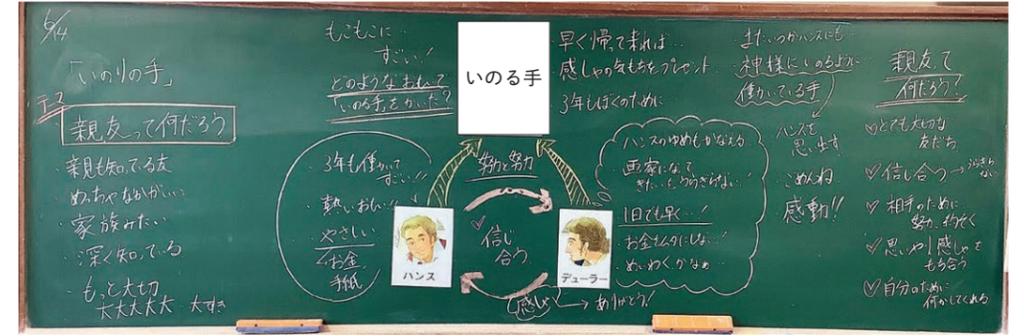
## 場面絵・顔絵の活用パターン

**対比から問題解決的に学習を進める**



5年「16 真由、班長になる」の板書です。宿泊学習の1日目に班内で意見が食い違い、うまくいかない場面と、2日目に班活動がうまくいった場面を対比して、なぜ2日目はうまくいったのかを考えます。場面絵を横に並べることで、対比することが容易になります。

**2人の思いが思いが合体！**



4年「9 いのりの手」の板書です。ハンスとデューラーという実在した人物の友情を描いた教材です。ここでは、ハンスとデューラーの互いへの思いを考えた後、2人の思いが「祈る手」に込められているということが分かるような構図で場面絵と顔絵を活用しています。

**同じ顔絵を2度使うことで分かりやすい！**



5年「4 やさしいユウちゃん」の板書です。この教材では、最初、「面倒を見るのが優しい人」だと思っていたユウちゃんが、お話を通して「見守ることが優しい人」というふうに変っていく過程が描かれています。同じユウちゃんとハルカの顔絵を2枚ずつ用意し、それぞれの変化について考えました。

# 1 指導書を使いこなすには？

みなさんは指導書を活用していますか。指導書には、ねらい、発問、板書例、デジタルコンテンツの活用、評価の視点などが載っています。道徳の授業に苦手意識をもっている先生でも、指導書を読んで授業をすれば、一

通りの授業ができるという仕様になっています。ここでは、あらためて指導書の内容を詳しく見ていきましょう。

## POINT 4 デジタルコンテンツの活用

デジタルコンテンツの活用例が掲載されています。

## POINT 1 ねらい

ねらいは授業の計画を立てるうえで、最も重要な要素です。必ず確認しましょう。



デジタルコンテンツ  
その教材に用意されているデジタルコンテンツの一覧が掲載されています。

④指導書（朱書・板書編）2年p. 8～9「2 金の おの」

## POINT 3 板書例

板書計画が掲載されています。学習の流れに沿った板書となっていますので、発問との関連を確認しておきましょう。

## POINT 2 発問

指導書（朱書・板書編）では、本文に即して、発問と板書が連動して掲載されています。子どもがどのように返答するかイメージしながら読み進めていきましょう。

## POINT 1 ねらい

ねらいは、授業を組み立てるうえで、いちばん大切な要素です。必ず確認するようにしておきましょう。

特に着目したいところが文末の表現です。文末の表現は大きく分けて3つあります。

- ・～するための判断力を育てる。
- ・～しようとする心情を育てる。
- ・～しようとする意欲を育てる。～しようとする態度を育てる。

これらは道徳性の諸様相である「道徳的判断力」「道徳的心情」「道徳的实践意欲と態度」に合わせて表現されています。

左ページで紹介した2年の教材「2 金の おの」の場合、ねらいは「正直な人に対しては褒めてあげたい、反対にうそをついた人に対しては少し懲らしめなくてはという気持ちになることから、正直に対する判断力を育てる」とあります。そのため、この教材では「道徳的判断力」を育成することが分かります。

ねらいによって、授業の展開が変わってくることになるので、文末の表現を確認しておくとういでしょう。

## POINT 2 発問

発問は、基本的には「導入の発問」「教材に関する発問」「自分ごとにして考える発問」という形で構成されています。

「教材に関する発問」では、3つ程度の発問が用意されています。子どもの実態によっては、発問の中身を変更したり、発問数を減らしたりするとよいでしょう。

授業をうまく展開させていくこうとしては、発問をした後の子どもとのやり取りの部分になってきます。そこで、発問の直後に書かれている「予想される児童の発言」（「・」で示されている発言）を読んで、子どもからどのような答えが返ってくるのかのイメージを膨らませておくとういでしょう。

「こういう答えが返ってきたら、このように問い返そう」となどと、問い返し発問もイメージができれば、話合いのレベルが一段階引き上がることになります。ぜひ、授業をする前に子どもから出てくるであろう意見を指導書を見ながら予想してみてください。

## POINT 3 板書例

発問と連動した板書例が掲載されています。だいたい構いませんので、どのくらいのスペースにどの発問のことを書くのかということを確認して、見通しをもつようにできるとよいでしょう。

指導書には、基本的に縦書きの板書例が示されています。しかし、道徳は国語と違って、文章の読み取りをするわけではないので、場合によっては横書きで板書をしていくこともおいに考えられます。

主人公の心情を追う展開では縦書きで行い、場面や人物の比較をする教材や、イメージを広げる教材なら横書きで行うなど、教材によって使い分けていくのもよいでしょう。あとのページに横書きの板書例を示していますので、そちらもご確認ください。

## POINT 4 デジタルコンテンツの活用

今回の改訂で、デジタルコンテンツが非常に充実しました。教材ごとに、以下のようなものがあります。

〈教科書QRコンテンツ〉

- ・心情メーター
- ・シンキングツール
- ・朗読音声
- ・ワークシート
- ・教材のアニメーション
- ・画像など

〈指導者用デジタルコンテンツ〉

- ・教材のアニメーション
- ・実際の様子が見える映像資料
- ・効果音
- ・関連情報へのリンクなど

これらのものがあらかじめ用意されているおかげで、教材準備の時間を大幅に短縮できます。

ぜひ、教材研究をする際には、真っ先に「デジタルコンテンツ」の一覧や「デジタルコンテンツの活用」のコーナーに目を通してみてください。

# 2 「ねらい」を意識して授業を考えよう！

みなさんは、指導書を見るとき、最初にどこを見ますか。授業がすぐできるように「発問」や「板書」の内容を最初に確認する方も多いかもしれません。しかし、実際には最初に確認してほしいところは「ね

らい」の部分です。「ねらい」によって授業の展開が変わるからです。6年の教材「ロレンゾの友達」を例に、発問の違いについて考えてみましょう。

教材：6年「16 ロレンゾの友達」

教材について：ロレンゾの友達であるアンドレ、サバイユ、ニコライは、幼なじみのロレンゾから手紙を受け取り、彼に対してどのように対応するかに頭を悩ませています。ロレンゾは会社のお金を持ち逃げした疑いをかけられていますが、実際は無実です。この状況において、3人がとった行動が友情にどのような影響を及ぼしているかを考える教材です。



ロレンゾ



アンドレ



サバイユ



ニコライ

内容項目：B 友情、信頼

ねらい：互いに信じ合い、相手の気持ちや立場を考え、自分にできることをしようとするのが友情を育むことに気づき、互いに信頼し、友情を深めようとする心情を育てる。

### POINT 1 「心情を育てる」場合の展開（発問）例 （指導書に掲載されている発問）

- ①ロレンゾから「再会したい」という手紙をもらって相談する3人はどんな気持ちだったでしょう。
- ②眠れないまま夜を明かした3人は、どんなことを考えていたのでしょうか。
- ③かしの木の下で話し合ったことを口にしなかったのは、3人にどんな思いがあったからでしょう。

### POINT 2 「判断力を育てる」場合の展開（発問）例

- ①友達のことをいちばん考えているのは3人のうち、誰でしょうか。
- ②あなたなら、かしの木の下で話し合ったことを「言う」か「言わない」か、どうしますか。

### POINT 3 「実践意欲と態度を育てる」場合の展開（発問）例

- ①3人はロレンゾから手紙をもらったとき、ロレンゾに対してどんなことを思ったでしょう。
- ②この経験を通して、ニコライ、サバイユ、アンドレの「友達を思う気持ち」はどのように変わっていくでしょう。

### POINT 1 「心情を育てる」場合の展開例

指導書に掲載されているねらいの様相は、「心情を育てる」となっています。それに伴い、発問は①「3人の気持ち」②「3人の考え」③「3人の思い」を考える展開となっています。①から③はそれぞれ以下の役割があります。

①は、ロレンゾに会いたいけれど、彼が悪いことをしたのではないかという疑いについて考える発問です。

②は、ロレンゾのことを心配しつつも、ロレンゾが罪を犯していたとしたらどうすればよいのかという葛藤を考える発問です。

③では、「罪を犯したと疑ったことを言わない」選択をした心の内を考える発問です。

これらのように、友達の心情の移り変わりを捉えていくことで、友情を育むために大切な心情とはどのようなものかについて考える展開となっています。

### POINT 2 「判断力を育てる」場合の展開例

「友情を深めるためには、どんなことを大切にしたらよいか」ということを判断する展開です。

①は、「友情を大切にしている考えはどれか」を問う発問です。

②は、かしの木の下で話したことを言うか言わないかを判断する発問です。

このように、「判断力を育てる」をねらいとする授業で気をつけたいのは、どの選択肢を選んでも「正解」はないということです。逆にいうと「不正解」もないということです。

「友情、信頼」をテーマにして考える以上、ある子どもは、「お金を持たせてだまって逃がしてやる」といったアンドレに共感を示すかもしれません。

社会通念上は、逃亡の手伝いをすると共犯となり、よくないことは明確なのですが、「友情、信頼」ということを考えるうえでは、その選択をした子どもも否定されるものではありません。

指導書では、「かしの木の下で話し合ったことを口にしなかったのは、3人にどんな思いがあったからでしょう」を発問としています。②では、「言うか、言わないか」と問い、その理由を問う展開です。

「言わない」の思いについては、指導書の通りですが、

あえて「言う」を選択する子どももいるかもしれません。正直に打ち明けたうえで、真摯に謝ったほうが友情が育まれるという判断も間違いではないでしょう。

### POINT 3 「実践意欲と態度を育てる」場合の展開例

「友情を深めたい」という実践意欲と態度を育てる展開となっています。

①は、「ロレンゾのことを疑う気持ちもあるけれど、根本では信じたい」という心情について考える発問です。

②は、この経験をした後、3人の友情に対する考え方がどのように変わったかを問う発問です。

これらの発問は、「～したい」というロレンゾの友達の願いを尋ねています。①では、「信じたい」というところを尋ねる発問、②では、この経験を通じて「友達を信じることが友情を深めることにつながる」と考えられるような内容の発問となります。

どの展開で授業を行う際にも、導入や展開の段階では、「友情を深めるためには」というテーマに沿った発問がされていると思います。

しかし、ねらいによって教材の中身に対する発問が変わる、ということも頭に入れておいてください。

学級の実態に応じてねらいを変えていき、そのねらいに合わせて発問を考えることで、より学級の実態に合った授業ができるでしょう。



# 3 「山場」を意識した授業とは？

道徳の授業をするうえで、悩みとしてよく聞くのが、「授業の展開がぶつ切りになる」というものです。下の図「山場のない授業」のように、場面①で、発問①をして、場面②で、発問②をして、場面③で……と繰り返していくうちに、展開がぶつ切りになってしまう、というものです。

では、展開がぶつ切りになってしまうと、どのような問題があるのでしょうか。問題は2つあります。

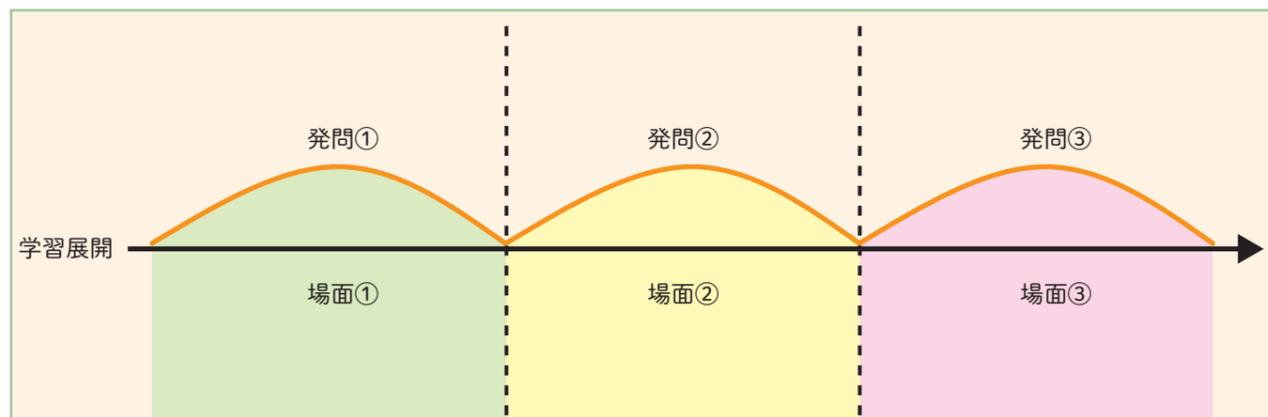
1つ目の問題は、その教材を通して考えたいねらいに

迫りにくいということが挙げられます。ぶつ切りになるから、なかなか思考を深めるところまで、授業が到達しないのです。

2つ目の問題は、授業が平坦になってしまい、おもしろみに欠けるということが挙げられます。どの発問も重みと同じになってしまい、どこを重点的に考えるのかが分からなくなってしまいます。

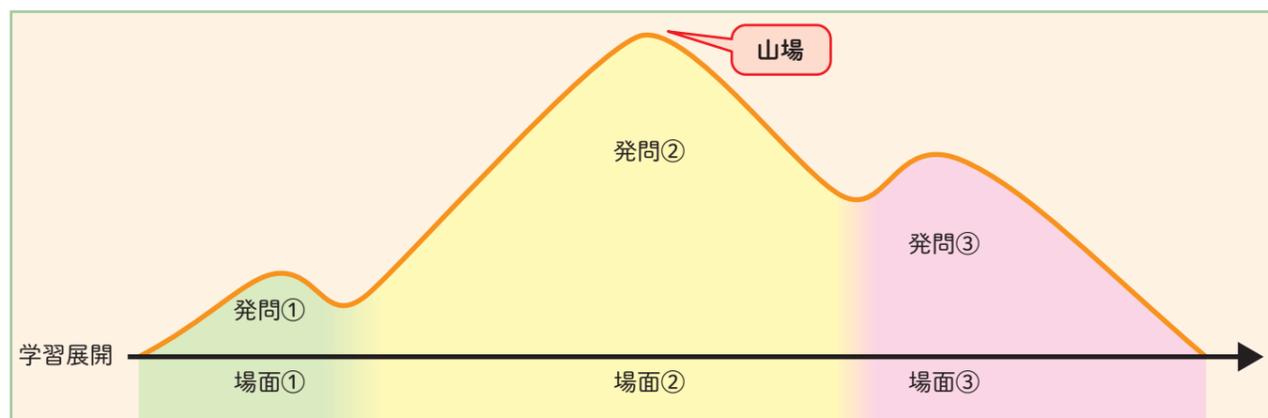
この問題を解決するために意識してほしいのが「山場」の存在です。下の図を見ながら確認していきましょう。

## ●山場のない授業



山場がないと、場面ごとの発問を淡々とする展開になり、展開がぶつ切りの授業になってしまう。

## ●山場がある授業



山場があると、中心場面に対して思考を深めようという意識がはたらき、場面や発問が連続性をもつようになる。

### ▶ POINT ① 山場をどこに設定する？

授業の「ねらい」を達成するために、いちばん話し合いを深めたいところを山場に設定していきます。

指導書を確認すると、1つの教材の中に、導入の発問と「見つめよう・生かそう」の発問のほかに、発問が3つもしくは4つあることが分かります。

教科書や指導書の中には「考えてみよう」という発問が書かれています。山場の発問としてこの発問をすれば、自然とねらいを達成できるように構成されています。(もっとも、「考えてみよう」以外は山場の発問になり得ないのかというと、そういうわけではありません。12～13ページで述べたように、「ねらい」が変わってくると展開も変わってくるようになりますので、その場合は山場の発問も変わってくることはおおいにありえます。)

### ▶ POINT ② 山場の発問のこは？

まず大切にしてほしいことは、子どもがじゅうぶんに考える時間を確保することです。

例えば、左ページの図「山場のある授業」のところでは、発問②が「山場の発問」ということになります。発問①、②、③で、それぞれ話し合いの時間を10分ずつ取って、合計30分にするのではなく、発問①は5分、発問②は15分、発問③は10分とするなど時間配分を変えて、じっくりと山場で話し合う時間を確保できるようにしていきます。

また、「山場」では、できる限り「書く活動」も取り入れたいです。「話す」と比べると「書く」は一段階思考レベルが上がる活動となりますが、「書く」ことにより、自分の思考が整理され、一段階深い思考へとたどりつくことができるからです。(→本冊子p.36「別冊『道徳ノート』で学びを振り返る！」)

### ▶ POINT ③ 山場の発問の準備

山場の発問をして、話し合い活動をする際には、子どもとの対話を楽しむようにしていきたいです。

そこで、指導書を見ながら、子どもがどのような発言をするのかについてあらかじめイメージを膨らませるようしておきます。

6年の教材「20 手品師」を例に考えます。指導書には、

「考えてみよう」の発問として「たった一人のお客様の男の子の前で、手品を演じているときの手品師は、どんな気持ちだったでしょう」という発問が載っています。それに対して、

⑦ チャンスは逃したけれど、これでよかった。

④ 約束を守ってよかったな。この笑顔が見たかった。

② 自分に誠実に行動してよかった。

という「予想される児童の発言」が載っています。

ここで、それぞれに対して、教師がどのような問い返しをしていくかを想定してみましょう。

⑦ に対して

本当によかったのかな。これまでずっと夢見ていた大舞台なんだよ。

④ に対して

もしも、この約束のほうがあとにされたものだったら手品師はどちらを優先していたのかな。

② に対して

自分に誠実ってどういうこと？ 手品師は、大劇場で手品をすることを諦めたけど、それって誠実って言えるのかな。

このように、問い返していく発問のことを「問い返し発問」といいます。問い返し発問で、子どもの思考を揺さぶるからこそ、だんだんと深い思考になっていきます。

以上、授業の山場について解説しました。「山場をどこに設定するのか」「時間配分はどうするのか」「子どもの発言に対してどのように問い返すのか」この3点を意識すると、山場での話し合いが盛り上がっていきます。

# 4 板書は「みんなのノート」である！

道徳の板書は、他教科の板書と比べて何が違うのでしょうか。まず、第一に違う点は、「板書は写すためにあるのではない」ということです。道徳の授業では、学習したことがテストに出てくるわけではありません。よって、「語句を覚えるために、板書されていることをノートに写すという作業はない」ということを念頭にお

いておいたほうがよいでしょう。

では、何のために板書をするのでしょうか。それは、話合いを記録したり、整理したりするためです。いわば板書は「みんなのノート」なのです。

ここでは板書の基本の型について確認しましょう。

**【展開】**  
展開では、教材を通しての話合いについて、黒板を使って整理します。主人公の心情の変化が分かるような板書や、登場人物を対比するような構成で整理してもよいでしょう。場面絵・顔絵も有効に活用しましょう。

第〇回 どうぞく  
ごめんね、サルビアさん

○動物や植物を育てたとき  
・生活科「アサガオ」水やりがたいへん  
・犬のさんば いやなときもある  
・花（家で）きれいな花がさいてほしい  
五月の「わたし」

○花の世話をするとときにたいせつなこと  
・自分かっつな気持ちで育ててはいけない  
・花の命を育てているということから、お世話をやめてはいけない  
六月の「わたし」…ようすを見に行かなくなる  
わすれることもある  
七月の「わたし」…暑くて見に行くのもいや  
水やりを一日のばしに

お世話がめんどうに、  
だんだんいやになった。

花もつぼみも落ちて、  
葉っぱもちぎられて、  
今にもかれそう。  
お母さん「お花の気持ちになって」

よかった、元気がなっ  
てくれて、自ぜんん力  
はすごい、もうほうっ  
ておいたりしないよ。

動物や植物の世話をするとときにたいせつなこと  
・途中でやめてしまわない。  
・心をこめて世話をする。  
・わたしと同じ命だから。

④指導書（朱 書・板書編）3年p.60～63「12 ごめんね、サルビアさん」

### 【見つめよう・生かそう】

板書の最後には、「見つめよう・生かそう」で発問したことを残します。道徳では、他教科と異なり「まとめ」はしませんが、「見つめよう・生かそう」で発問をしたことを板書に残しておくことで、子どもは振り返りをしやすくなります。

### 【導入】

導入で子どもの経験を尋ねたら、その内容を板書に残しておきます。これにより、教材を読んでいる際に経験を想起しやすくなります。

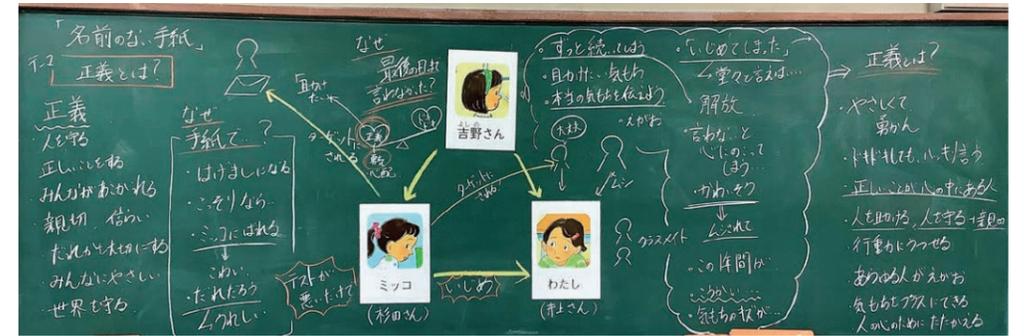
指導書に掲載されている板書例は、主に縦書きで示されていますが、道徳では横書きで板書することも可能です。ここでは、横書きの板書例を紹介します。

### 思考を広げる板書



4年「35 浮世絵－海をわたったジャパン・ブルー－」です。教材を読んで、「浮世絵」のよさについて話合いを進めます。その後「日本の伝統工芸品のよさ」に目を向けます。このように展開することで、「浮世絵」という一つの伝統文化から、日本の伝統文化へと考えを広げることができます。

### 3人の関係性を整理した板書



5年「17 名前のない手紙」です。登場人物が3人以上出てくる教材では、人物の関係性を整理していくと、教材に対する理解が深まります。教材への理解を深めたうえで、内容項目「C 公正、公平、社会正義」に対する考えを深めていきます。

### もやもやから考える板書



6年「15 ぼくだって」です。内容項目「B 相互理解、寛容」の教材では、相手の立場に立てるように、相手方の思いについても考えていきます。双方のもやもやがどのように晴れたのかを考えることで、広い心をもつために大切なことについての思考が深まります。

# 1年 どうしてかな

教材：1年「9 どうしてかな」 内容項目：C 規則の尊重

ねらい：きまりを守ることで、みんなが楽しく過ごせることを理解し、きまりを進んで守ろうとするための判断力を育てる。

## 指導書に掲載されている授業の流れと主なポイント

### POINT 2 発問④かんがえてみよう

④きまりを守ることがどうして大切なのか、もんたさんに教えてあげましょう。  
→きまりを守ることの大切さについて考える発問

### POINT 1 発問①、②、③

- ①教室でボールを投げたときに叱られたわけを、もんたさんに教えてあげましょう。
- ②廊下を走ったときに叱られたわけを、もんたさんに教えてあげましょう。
- ③掃除の時間に遊んでいて叱られたわけを、もんたさんに教えてあげましょう。  
→それぞれの事例に対して、なぜ叱られたかを考えさせる発問

だいたい、どうしてかな  
どうしてかな  
きまりを守ると...  
いいことになる  
ほめられる  
きまりを守ると...  
ほめられる  
いいことになる  
きまりを守ると...  
ほめられる  
いいことになる

①指導書(朱書・板書編)1年p.32~33「9 どうしてかな」

### POINT 3 みつめよう・いかそう

○あなたの周りには、どんなきまりがありますか。なぜ、そのきまりがあるのか考えてみましょう。  
→自分の経験とつなげて考える発問

### 導入

○今日は、「きまり」について考えましょう。  
→「きまり」について思い浮かべる発問

### POINT 1 発問①、②、③

それぞれの場面に対して、「何がよくなかったのか」を考える発問となります。

通常、道徳の授業では教材を全部通して読んでから発問することが多いのですが、本教材では、区切りながら発問をしていくことも可能です。

1年生という発達の段階を考えると、「短く切る」ことが時に有効にはたらくこともあります。ただし、短く切って考えると、その場面のみ思考になってしまうため、全ての発問が終わった後には、POINT 2にあるような教材全体を貫く問いをしたほうがよいでしょう。これにより、別々の場面として提示されていたものから、「うまくきまりを守ることができなかった場面」という共通点が見えてきて、深い思考を促すことができます。

### POINT 2 発問④かんがえてみよう

山場の発問となります。①~③の発問をした後に、「きまりを守ることがどうして大切か」を問います。

ここでのポイントは発問が「もんたさんに教えてあげましょう」となっているところです。

低学年にとっては、「どうしてきまりを守ったほうがよいのか」ということは概念的なことであり、少々難易度が上がる発問となります。

「教えてあげる」という体裁をとることにより、子どもたちは「話したい」という主体性を発揮するようです。できることなら、担任がもんたの役を演じることで、「どうしてきまりを守ったほうがいいのか」をきまりがあるのは分かったけど、きまりを守るのは面倒くさいなあなどと発言し、子どもたちの「話したい」を引き出してあげましょう。

### POINT 3 みつめよう・いかそう

自分ごとに返していく発問となります。せっかく教材を通して、きまりについて考えたので、「学校のきまり」や「学級のきまり」に目を向けてみるとよいでしょう。

また、振り返り際には、「学習して考えたこと」を書くという通常の振り返りでもよいのですが、「今日の学習で大切だと思ったことをもんたさんに教えてあげよう」と手紙形式にして振り返りをするのもおすすめです。

「教えてあげる」という活動は子どもたちの「書きたい」という意欲に火をつけてくれます。



## 私の実践 1年「9 どうしてかな」の実践例

「どうしてかな」  
きまりについてかんがえて  
なぜきまりをまもったのか  
きまりを守ると...  
いいことになる  
ほめられる  
きまりを守ると...  
ほめられる  
いいことになる

導入では、「学校にはどんなきまりがあるかな」ということを聞きました。その後教科書を読みながら、それぞれの場面で、何がよくなかったのかということをもんたに見立てた猿のパペットを片手に「どうしてかな？」というせりふで問いかけていきました。

場面について考えた後には、「なぜきまりを守ったほうがいいのか」ということを問い、最後に「きまりを守るとどんないいことがあるか」を問いました。

「きまりを守ると、『褒められる』ということとともに『心が明るくなる』という答えが出てきていたところが低学年らしく、ほほえましいところでした。

# 2年 およげない りすさん

教材：2年「10 およげない りすさん」 内容項目：B 友情、信頼

ねらい：誰かを悲しませて自分たちだけで遊んでも本当に楽しくないことや、みんなと仲よく遊んだほうが楽しいことに気づき、友達と仲よくし助け合うための判断力を育てる。

## 指導書に掲載されている授業の流れと主なポイント

### 発問③考えてみよう

③りすさんと一緒に島に向かってるみんなは、どんなことを思っているでしょう。  
→仲間外れにせずみんなで遊んだときの心情を問う発問

### POINT ① 発問①、②

①どんな思いからかめさんたちは、「りすさんは、およげないからだめ」と言ったのでしょうか。  
②島で遊んでいても少しも楽しくないかめさんたちは、どんなことを考えているでしょう。  
→あひる、かめ、白鳥がりすを仲間外れにした際の心情を問う発問

○いっしょにしまへむかっている  
何がちがう？

○少しも楽しくない  
りすさんのことが気になるな。りすさんにわるいことをしたな。自分たちはいじわるだったかな。

○おおよげないからだめ。  
おおよげないから行けないよ。いなくてもべつにいいか。また、こんどあそぼう。

だいたい○回 どうとく  
およげない りすさん  
友だちとよくあそんでいますか。いろいろな友だちとあそんでいる。ときどきけんかをする。

なにかはすれに  
してごめんね。  
よろこんでくれてうれ  
しいな。  
やっぱりみんないっ  
しょがいいね。

みんなであつしよにあそんで楽しかったこと  
・おにごっこ↓みんながわらっていた  
・ドッジボール↓みんなであそびました  
・ながなわ↓こえをかけたあそび

④指導書（朱書・板書編）2年p.42～45「10 およげない りすさん」

### POINT ② 見つめよう・生かそう

○友達とみんなで一緒に遊んでよかったなと思ったことを話しましょう。どんな気持ちからそう思いましたか。  
→いろいろな友達と遊んでいるときの経験を想起させる発問

### 導入

○友達と仲よく遊んでいますか。  
→特定の友達と遊んでいるときの経験を想起させる発問

### 登場人物の関係性を整理しよう

発問や学習の流れを考える前に確認しておきたい前提があります。それは、登場人物の関係性についてです。

複数の登場人物が出てくる際には、そこに作者の意図があるはずなので、そこを読み解いておいたほうがよいでしょう。今回の登場人物を整理すると以下のようになります。



りす

- ・あとから来た。
- ・泳げない。



あひる、かめ、白鳥

- ・遊ぶ相談をしていた。
- ・泳げる。

このように整理してみると、私たちの生活でもこれに似たような場面があることが想像できます。

例えば、仲よしの3人が縄跳びで遊ぼうとしていたところに、別の友達がやってきた場面を考えてみましょう。その友達は縄跳びが苦手だったとします。さて、どうしましょう。もともと約束をしていた3人で遊ぶのか。やって来た子も交えて縄跳びをするのか。それとも、縄跳びが苦手な子に配慮して遊びそのものを変えるのか。子どもたちはおおいに悩むことでしょう。

本教材は「B 友情、信頼」としても考えられますが、誰に対しても分け隔てなく接するという「C 公正、公平、社会正義」としても考えられます。このように教材研究を進めていけば、実生活に結びついた道徳の授業に一步近づきます。

### POINT ① 発問①、②

授業の流れとしては、発問①、②で、「りすさんは泳げないからだめ」と言ったことや、「島で遊んでいても楽しくない」という、あひる、かめ、白鳥のマイナス面の心情について考えます。

その後、発問③で、「一緒に遊べてよかった」というプラス面の心情を考えます。

このように、心情が変化する際には、板書例にあるように「何が違うのか」「なぜ違うのか」ということを追究していくと思考が深まっていくことになります。

例えば、「3人で遊んでも、4人で遊んでも、遊ぶ中身は同じ（遊具を使って遊ぶ）だよ。でも、楽しさが違うのはどうしてかな」と問いかけ、思考を揺さぶることができます。子どもたちからは、「遊ぶときには、人数が多いほうが楽しいよ」という答えが返ってくるかもしれません。その場合には、「だったら、りすさんじゃなくて、泳げるペンギンさんとかを連れてきたほうがよかったかもしれないね」と問い返していきましょう。すると、人数ではなく、「いや、『りすさん』だからこそ意味がある」、「『りすさん』という存在が大切なのだ」ということに気がついていくはずですよ。

※なお、本冊子p.30～31でも紹介しますが、教科書p.46～47「ぐっと深める」にあるように、島に向かうときの動物たちの会話の様子を役割演技を通して考え、心情を理解していくという方法もお勧めの方法です。

### POINT ② 見つめよう・生かそう

「みんなで遊んでよかったこと」について振り返ります。

「このお話のように、みんなで遊んでいてよかったなと思ったことはあったかな」と問い、教材と実生活をリンクさせることを意識した声掛けをします。

例えば、指導書の「予想される児童の発言」に「ドッジボールをみんなでして楽しかった。大勢でやるほうが楽しい」というものがあります。「そうだね」と共感しつつも、「ドッジボールが苦手な友達も楽しむには何が大切かな」と投げかけてみましょう。「ボールを投げるのが苦手な人も、投げられるようにボールを渡したらいいよ」という声が返ってくるかもしれません。これは、教材を通して「苦手な人も楽しめるようにすることが大切」「その人（友達）のことを思った行動が大切」ということに気づいたからこそその発言ではないでしょうか。

教材と実生活をつなげていくという意識を忘れないようにしたいものです。

# 3年 まどガラスと魚

教材：3年「23 まどガラスと魚」 内容項目：A 正直、誠実

ねらい：自分の心の中にある正直さを偽らず素直であることの快適さに気づき、正直に明るい心で元気に生活しようとする態度を育てる。

## 指導書に掲載されている授業の流れと主なポイント

### POINT 3 発問②考えてみよう、発問③

- ②あれだけ正直になれなかった千一郎が、本当のことを言おうと思ったわけを考えてみましょう。
- ③正直でいることは、どうして大切なのでしょう。→正直でいることの大切さについて考える発問

### POINT 2 発問①

- ①窓ガラスを割ってからの数日間の、千一郎の心の中は、どのような様子だったのでしょうか。→千一郎の葛藤について考える発問



④指導書（朱書・板書編）3年p.112～115 「23 まどガラスと魚」

### 見つめよう・生かそう

- 過ちを素直に認め、正直に行動してよかったことを発表しましょう。どんなことを考えて、正直に行動したのでしょうか。→経験を想起し、自分の行動を分析的に捉える発問

### POINT 1 導入

- キャッチボールをしていて、よその家の窓を割ってしまいました。どうしますか。→疑似体験から教材の状況を理解する発問

### POINT 1 導入

導入には、「教材への導入」と「価値への導入」という2つの側面があります。今回の「キャッチボールをしていて、よその家の窓を割ってしまいました。どうしますか」という発問は、教材に書かれた出来事を理解するための「教材への導入」としてはたらしません。

ここで「教材への導入」と「価値への導入」について整理しておきましょう。(◎:メリット、△:デメリット)

#### ＜教材への導入＞

- ◎教材に書かれた出来事が分かり、没入しやすくなる。
- ◎教材の中身を自分ごととして考えやすくなる。
- △教材の話から一般化する際に難しい。

#### ＜価値への導入＞

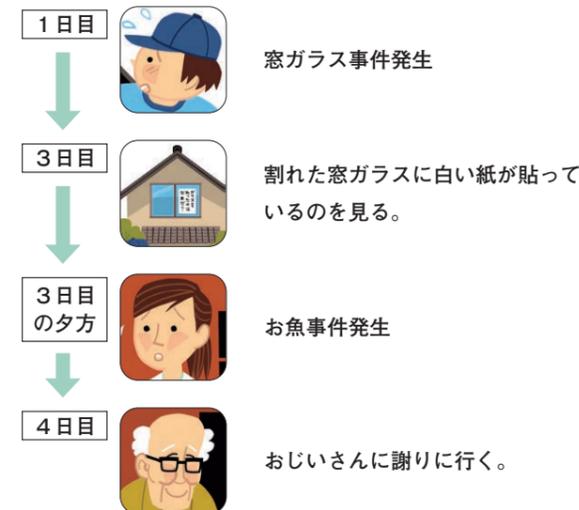
- ◎この1時間で考えることが明確になる。
  - ◎自分の経験を想起することで経験と教材を結び付けやすい。
  - △教材の内容が難しい場合は他人ごとになりがち。
- これらの特徴を頭の片隅において、使い分けをしてみてください。

仮に、この教材で「価値への導入」を行う場合、「正直にしたほうがいいと思いつつも、できなかった経験はありますか」などの発問が当てはまるでしょう。

### POINT 2 発問①

発問について理解する際には、いつ何が起こったのかを整理すると問うべきことが見えてくる場合があります。

教材での出来事を時系列でまとめたものが下の図になります。



発問①は、千一郎の葛藤について考える発問です。

図で示したように、千一郎は、1日目に窓ガラスを割ってから、4日目まで、長い期間悩んでいたことがわかります。

実生活に置き換えてみるとわかりますが、3年生という発達段階で4日間も悩み続けることは相当なことではないでしょうか。

そこで、発問をする際に、「千一郎は4日間も悩んだんだよ。みんなは、何かで4日間も悩んだことはあるかな」などと補足しながら、千一郎がいかに悩んだかということに分かるようにしたらよいでしょう。

### POINT 3 発問②考えてみよう、発問③

発問②は、葛藤をどのようにして乗り越えたかを分析的に捉える発問です。発問①で葛藤の中身を明確にしておいたからこそ、発問②は重みを増してきます。

「怒られるかもしれないと悩んでいたけど、謝ることができたのはなぜかな」「正直に言って、謝るということはすごく勇気のいることだけど、なぜ謝れたのだろう」と、思考に揺さぶりをかけていくことができます。

発問③は価値に迫る発問と言えます。この発問があるからこそ、教材から実生活へと思考を転換していくことができます。

もし、この発問がなかったら、振り返りが「千一郎は謝ることができてよかったな」「謝ることって大切だな」といった、教材文を読んだ感想に終始してしまうことではないでしょうか。

別案としては、千一郎という人物に着目して「千一郎のすごいところはどこかな」と問うこともできそうです。「悩んでいたけど、正直に謝ることができたこと」「もやもやしていたけど、言えたこと」などが返ってきそうです。「千一郎はもやもやを解消するためだけに謝りに行ったのかな」と問い、正直に言うのは自分のためであり、人のためでもある、ということに気づかせていきたいところです。

# 4年 いじりといじめ

教材：4年「19 いじりといじめ」 内容項目：C 公正、公平、社会正義

ねらい：いじりはいじめにつながることや、つらい思いをしている人がいたらみんなで正すことがよりよい集団を作ることに気づき、分け隔てせずみんなで気持ちよい集団を作ろうとする心情を育てる。

## 指導書に掲載されている授業の流れと主なポイント

### POINT 2 発問③、④考えてみよう

- ③げんきくんの言葉について、どう考えますか。
  - ④ゆうきは、みかさんの言葉でどのようなことに気づいたのでしょうか。
- 「いじり」と「いじめ」は構造的に同じであるということに気づかせる発問

### 発問①、②

- ①「今の、笑っているのかな。」と言ったみかさんは、どんなことを考えているのでしょうか。
  - ②げんきくんは、どう思っているのでしょうか。
- 「いじり」はしてもよいのかという問題提起をする発問

第〇回 道徳  
いじり  
楽しい/好きだから/別にいいこと  
いじめ  
楽しくない/きらい/いけないこと

いじりといじめ  
○「今の、笑っているのかな。」  
・ まちがいを笑うのはよくない。  
・ 失敗をばかにしてはいけない。  
・ まさるくんの気持ちを考えなければ。

○「げんきくんは、どう思っているのかな。」  
・ 「まっちゃんもみんなにうけたんだし。」  
・ まさるくんはよろこんでいる。  
・ みんなだっつよるんだよ。  
・ いじりはいじめと同じ。  
・ まさるくんのほんとうの気持ちはわからない。

○みかさんの言葉で気づいたこと  
・ 人の失敗を笑うことは、おもしろいことではない。  
・ まさるくんの気持ちを考えなかった。

①指導書（朱書・板書編）4年p.96～99「19 いじりといじめ」

### 見つけよう・生かそう

- 誰にでも分け隔てなく接するためには、どんな考えが大切でしょう。
- 実生活に生かすために思考を整理する発問

### POINT 1 導入

- いじりといじめは、どこがどう違うのでしょうか。
- いじりといじめを比較し、問題意識をもたせる発問

### POINT 1 導入

「いじり」と「いじめ」について比較する導入です。

「いじめ」という言葉については、よく聞く言葉であり、ふだんから指導もされているので、子どもはイメージをもっています。一方、「いじり」という言葉については、耳なじみのない子どももいることでしょう。

発問をする際には、『「いじり」と「いじめ」は一文字違いだけど、中身は同じなのかな』と問うことで、問題意識をもたせていきます。

ここでは、「いじり」と「いじめ」の違いを明確化させて、板書に残しておくといでしょう。板書に残しておくことで、発問③や発問④について考える際に、最初の考えと比較することができます。

### POINT 2 発問③、④考えてみよう

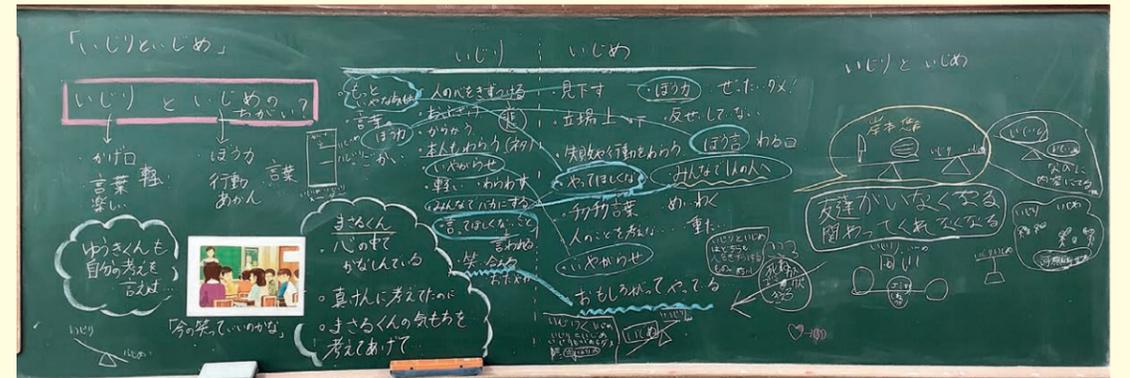
発問③、④では、「いじり」と「いじめ」は構造的に同じであるということに気づかせたいところです。

発問④に対して、「予想される児童の発言」として、「まさるくんが笑っていても、まさるくんの本当の気持ちは分からない」というものがあります。

そこで、「まさるくんの本当の気持ちって何だろうね」と問い返し、まさるくんの内面に迫っていきたいところです。そして、「まさるくんが嫌がっていなかったとしたら、いじりは続けてもいいのかな」とも問うてみたいところです。表面上は嫌がっていないとしても、それは嫌がっていないふりをしていて、内面は嫌がっているかもしれないという可能性についても考えられるような子どもになってほしいものです。



## 私の実践 4年「19 いじりといじめ」の実践例



導入では、「いじり」について実感をもって考えてほしいという思いから、お笑いの動画（いじり芸をしているもの）を視聴しました。そのうえで、「いじり」と「いじめ」の違いについて考えました。

展開では、「今の、笑っているのかな」に込められているメッセージについて考えた後、「いじり」と「いじめ」について徹底的に比べてみようということで、対比を行いました。

最初は違いがたくさん見つけていたのですが、話し合いを進めるうちに、『「いじめ」は暴力、『いじり』は言葉の暴力、『いじり』も『いじめ』をやられている人からすると、やってほしくないこと』という共通点が見つけてきました。

最後にあらためて『「いじり」と「いじめ」についてどのように考えましたか』と問い、『「いじり』はいじめの入り口となりうる』ということが話し合いで確認できました。

終末では、「いじり」についての説話をしました。「芸人が行っている『いじり』は、プロの芸であって、まねをするのが危険なものなのです。例えば、ボクサーがパンチをしている様子を見て、カッコいいからといって、教室でまねをしないでくださいね。それと同じことですよ』という話をしました。

授業を通して、「いじり」という行為についても重く受け止めてほしいと願うばかりです。

# 5年 うばわれた自由

教材：5年「25 うばわれた自由」 内容項目：A 善悪の判断、自律、自由と責任  
 ねらい：わがまま勝手は、自分のわがままな心に振り回され、自由とは違うことや、自由だからこそ自分に責任が伴うことを理解し、自分でよく考え責任ある行動をとろうとするための判断力を育てる。

## 指導書に掲載されている授業の流れと主なポイント

### POINT 2 発問③、④考えてみよう

- ③牢屋で再会したジェラル王とガリューは、どのような話をしたでしょう。
- ④「ほんとうの自由をたいせつに」というガリューの言葉を聞いて、ジェラル王はどんなことを考えたでしょう。  
→ジェラル王の自由に対する考えの変化を考える発問

### 発問①、②

- ①森の番人ガリューに「……わがままというものです」と言われたとき、ジェラル王子は、どう思ったでしょう。
- ②国王となり、わがまま放題がひどくなったことで裏切られてしまったジェラル王は、どんなことを考えたのでしょうか。  
→ジェラル王のわがままについて考える発問

第〇回 道徳

うばわれた自由

みんなが考える「自由」とは

- ・何でも好き勝手にやれる。
- ・きまりや約束を守れば好きにできる。
- ・何でも自由に行動したとき…

「わがままです」と言われて

- ・うるさい。
- ・王子はやりたいことを自由にしたいのだ。
- ・何が悪いというのだ。
- ・おれにさからうやつはつかまえてやる。

うらみられたジェラル王

- ・なぜこんなことになったのか。
- ・世の中がみだれて申しわけない。
- ・自分の何がいけないのだらうか。

「ほんとうの自由をたいせつに」

- ・自分の行動は自由ではなくただのわがままだった。
- ・他の人々の自由もたいせつにしなければならなかった。
- ・世の中のきまりをたいせつにしなければ自由な生活はできない。

「自由とは」

- ・自分勝手なわがままではない。
- ・みんなのことを考えて行動する。
- ・自分の行動に責任をもつ。

④指導書（朱書・板書編）5年p.114～117「25 うばわれた自由」

### 見つめよう・生かそう

- 学習を通して、自由とは、どのようなものかと思いましたが。  
→学習を通して、改めて「自由」に対して捉え直し、考えを整理する発問

### POINT 1 導入

- あなたが考える「自由」とは、どのようなものですか。  
→導入時での、「自由」についての考えを問う発問

### POINT 1 導入

導入の発問は「自由」についての概念を問う発問です。ここでは、教材に出てくる「ほんとうの自由」と対比するために、できれば「わがまま」に近い意見が出てくることが望ましいです。

別案としては、「たった今から『自由にしてもいいよ』と言われたら何をしますか」などと聞いてみるのも一つの手です。「教室の中でテレビゲームをする」「今すぐ帰って、遊びに出かける」など、子どもの素直な考えが出てくることになり、ここから「自由」について考えるきっかけにするのもおもしろそうです。

### POINT 2 発問③、④考えてみよう

①～④の発問の流れを簡単に整理します。

#### 【展開の発問】

- ・①は、自由奔放に振る舞っているジェラル王子の考え（わがまま）について問う発問
- ・②は、自由奔放に振る舞った結果、どのような悪影響が起きたかを考える発問
- ・③は、ガリューの言うことを聞かずに後悔しているジェラル王の気持ちを考える発問
- ・④は、ジェラル王の自由に対する考えの変化を捉える発問

①～④の発問には、「自由とわがままの違いを考える」「わがままを貫き通すとどのようなことが起きるかを考える」という意図があります。

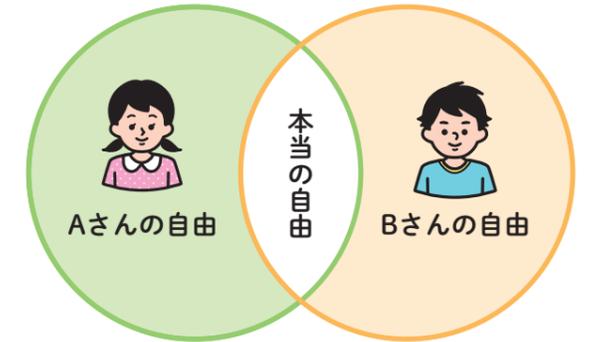
ジェラルが「自由に対して捉え方が変わってくる」ということを教材を通して追体験できる構成となっています。

④について、指導書では、次のような子どもの発言を予想しています。

- ⑦ 自分の行動は自由ではなく、自分だけのわがままだった。
- ⑧ ほかの人々の自由も大切にしなければならなかった。
- ⑨ 世の中のきまりを大切にしなければ、自由な生活はできない。

⑦のような意見が出てきた際には、「そもそも自由とわがままって何が違うのかな」と問い返し、理解を深めていきます。

⑧のような意見が出た際には、黒板に下図のように書き、整理していけばよいでしょう。（ベン図）



⑨のような意見が出てきた際には、「自由には、きまりがいるってことなんだね。では、きまりをたくさん作っていったら自由になるってことかな」と揺さぶりをかけていきます。すると、「うーん。数がたくさんあればいいってことじゃないかな」「人のことを考えた自由が大切なかもしれないよ」という意見が出てきます。

このように問い返していく中で、子どもは思考が整理され、考え議論する道徳へと一歩近づいていきます。

別案として、ジェラル王子とガリューの自由に対する考えを対比するという方法もあります。

#### 〈ジェラル王子の考える自由〉

- ・王子だから勝手気ままに振る舞える。
- ・国民も「したいようにできる自由」を望んでいる。
- ・わがままな心が根本にある自由。

#### 〈ガリューの考える自由〉

- ・きまりのうえに自由がある。
- ・ほんとうの自由はわがままとは違う。
- ・他人のことも考えた自由が大切。

本教材では、対照的な考えをもつ2人が描かれているので、対比していくうちに「ほんとうの自由」が見えてくるようになっていきます。

# 6年 カスミと携帯電話

教材：6年「8 カスミと携帯電話」 内容項目：A 節度、節制

ねらい：毎日、同じリズムで生活することは簡単なようで難しく、自分の生活を自分でコントロールする意識と意志が必要であることを理解し、節度を守って生活していくための判断力を育てる。

## 指導書に掲載されている授業の流れと主なポイント

### POINT 2 発問③考えてみよう

- ③カスミはどのように考えて、お母さんに携帯電話を返したのでしょうか。
- 携帯電話をうまく使えなかったという結果を経て、自分を見つめ直す行動をとるカスミに共感を促す発問

### 発問①、②

- ①レイナとのメッセージのやり取りで夜更かししているとき、カスミはどのような気持ちだったでしょう。
- ②重い足取りで帰っていくレイナの姿を、カスミはどんな気持ちで見送っていたのでしょうか。
- カスミの心情の変化を追う発問

第○回 道徳  
カスミと携帯電話

○レイナとのメッセージのやり取りで夜更かししているカスミの気持ち  
・やりとりが楽しい。  
・早く終わらせたいけれど、やめるのは言いづらい。  
・少しくらい夜ふかししても、平気でしょう。

○重い足取りで帰っていくレイナを見送るときカスミの気持ち  
・大じょうぶかな。  
・私とのやり取りのせいかもしれない。  
・私もレイナのようになるかも。  
・やめようと言えはよかった。

○カスミはどのように考えて携帯電話を返したのでしょうか。  
・まだちゃんと使えなかった。  
・ルールを決めてからにしよう。  
・自分がもう少し強い気持ちでやめられるようになってからにしよう。

★毎日同じリズムで生活するためには、どんなことに気をつければよいでしょう。  
・周りへのめいわくや自分の生活を考える。  
・ルールを守ろうとする思いをもち続ける。

携帯電話のせい ↓ 時間管理・自分の気持ち

①指導書（朱書・板書編）6年p.36～39「8 カスミと携帯電話」

### POINT 3 見つめよう・生かそう

- 毎日同じリズムで生活するためには、どんなことに気をつければよいでしょう。
- 自分ごととして考えるための発問  
導入とセットにすることで、思考の変容を促えることができる。

### POINT 1 導入

- 毎日、同じリズムや生活習慣で生活できていますか。
- 生活経験を想起させる発問  
導入で尋ねることにより、教材を身近に感じられるようにする効果がある。

### POINT 1 導入

導入は、経験を想起させる発問です。

6年生ともなると、自分の身の回りのことは自分でするように親や先生に言われて生活をしていると思いますが、全員がうまくいっているとは限りません。

そのような経験を想起させることで、カスミの「つい携帯電話を使いすぎてしまう」という状況に対して共感を得やすくするというねらいがあります。

ほかには、アンケート調査を行い、それを導入で示すという方法があります。

「スマホを所持しているかどうか」「1日にどれくらいの時間スマホを使っているか」「メッセージアプリをどれくらい使っているか」などの項目を調査しておく、カスミの状況をよりリアルに考えることができます。

なお、アンケートをとっておくと、その結果と学習したことをセットで学級懇談会などで示し、啓発することができるのでおすすめです。

### POINT 2 発問③考えてみよう

本教材の山場となる発問です。「節度、節制」がテーマとなっていることは、本来なら、「自分の欲望をコントロールしながら携帯電話を使えるようになる」というのが理想です。

しかし、「携帯電話」は依存性が高く、大人でもネット依存やスマホ依存ということが社会問題として挙げられているほどです。よって、カスミはお母さんに返却するという選択をしましたが、「どのように考えて返却したか」というのは重要なポイントとなります。

「私には使いこなすことができない」という諦めの気持ちなのか、「成長するまでは、まだやめておこう」という前向きな気持ちなのかという点は考えていきたいところです。

指導書にある「予想される児童の発言」としては、

- ⑦ まだちゃんと使えなかった。
- ⑧ もう少し、ルールを決めてから使えるようにしよう。
- ⑨ 自分がもう少し強い気持ちで時間になったら止められるようにしてからにしよう。

となっています。

それぞれ、⑦に対しては、「では、いつになったらちゃ

んと使えるようになると思うかな」、⑧に対しては、「どんなルールがあったほうがよいと思うかな」、⑨に対しては、「強い気持ちでどうやって出てくるのかな」などと問い返し、具体的に考えられるようにします。

中学生や大人になったからといって携帯電話をうまく使えるようになるというわけではない、ということも踏まえて考えていくと、実は「いつ」という時間軸で考えるのではなく、「どのようにして携帯電話に向き合うか」が大切であるということが見えてくるはずです。

別案として、「この話で、あなたがカスミの立場なら携帯電話を返しますか。返さないですか」と問う方法もあります。どちらを選んだとしても、判断した理由を大切にすることで、携帯電話に対して向き合う道徳的な判断力が養われるはずです。

### POINT 3 見つめよう・生かそう

導入で想起させた経験について、もう一度問い直し、子どもに学びを自覚させる発問です。

導入では、同じ生活リズムで過ごせた経験や過ごせなかった経験を話していましたが、ここでは、教材を通して、なぜ「同じリズムで過ごせる日」と「そうではない日」があるのかを分析的に捉えさせます。そして、どのようなことに気をつけて過ごせば同じリズムで生活することができるようになるのかを考えさせたいです。

もちろん、この学習をただで明日からの行動が全て変わるということはないかもしれませんが、学習したことが一つのきっかけとなれば授業者としてはうれしい限りです。

なお、指導書では「同じリズムで生活すること」に着目していますが、子どもの実態によっては、「携帯電話との付き合い方」に焦点を当てて振り返りをしてもよいかもしれません。今の時代、スマートフォンの世帯保有率は9割（総務省「通信利用動向調査」2023年）を超えており、今後、その比率は上昇することが見込まれます。スマートフォンなどの情報通信機器を使うときは節度あるつきあい方が必須なため、そこに焦点を当てて考えさせることもできます。

# 1 子どもたちの思考を「ぐっと深める」！

教科書には、「ぐっと深める」というページが設けられていることをご存じでしょうか。このページでは、子どもたちの思考を「ぐっと深める」ために有効な手立てが提案されています。学習の流れが教科書に示されてい

るといふこと、ふだんの授業とは異なる展開が提案されていることがこのページの特長です。ぜひ有効に活用してみてください。

## 「ぐっと深める」のタイプ

### 問題解決的な学習を取り入れて

教材の中に何が問題点として挙げられているかを考えた後、解決への道筋を考えていく授業展開です。問題解決的な学習を通して、自我関与させながら、学びを深めることができます。

教科書6年p.125「26 自分を守る力って？」



4

それぞれの場面では必要な力は、どんな力でしょう。それが自分自身を守るために必要な理由を考えてみましょう。

### 体験的な学習を取り入れて

「役割演技」や「動作化」を通して体験的に学習することで、子どもはより実感をもちながら学習を進め、考えを深めることができます。学年を問わずできる学習活動なので、ぜひ取り入れてみてください。

教科書6年p.31「6 心づかいと思いやり」



2

段々、自分と関わっていき、いろいろな人を見て、心づかいと思いやりを学んでみましょう。

### 多様な実践活動を生かして

実践活動や体験活動との関連を示していることで、道徳的实践を主体的に行う意欲や態度を育むことができます。授業の導入で提示する、という方法もあるでしょう。

教科書5年p.43「10 ひとふみ十年」



### そのほかにも

道徳科の授業は、授業内で完結するものばかりではありません。ときには調べ学習などをして、そこから実生活に結びつけていく、というのもよい方法ではないでしょうか。

教科書4年p.22「4 プラッシュ」



## 私の実践 「ぐっと深める」2年「10 およげない りすさん」の実践例



2

りすさんといっしょにしましむかっているみんなは、どんなことを思っているのかな。



教科書2年p.47

### POINT 1 役割演技を取り入れるポイント

教科書2年p.46～47の「ぐっと深める」では、この教材で役割演技を取り入れて学習を進める参考例を紹介しています。

ここでは例として、りす、あひる、かめ、白鳥という4役で役割演技を進めています。(もし、学級の子どもたちがまだ役割演技に慣れていないという実態があるなら、りす、かめの2役で進めることも考えられます)

役割演技は、単にやっただけで終わらせるのでは意味がありません。「やってみて、どんなことを感じたか」や「演じているところを見ていて、どう思ったか」と聞くことが重要です。そうすることで子どもたちの思考を「ぐっと深める」ことができます。

なお、本冊子p.20～21で、この教材の実践例を紹介しているので、そちらもご覧ください。

### POINT 2 役割演技を取り入れる意義

通常の授業展開と、役割演技をしたうえで話し合いを進めていくのでは、何が違うのでしょうか。

まず、子どもが教材文に書かれている状況をあまりイメージできていない場合は、役割演技を通してイメージを鮮明にすることで、あとの話し合いが豊かになってくるということがあります。

また、授業にリズムが生まれるという効果が生まれます。ずっと座ってばかりで授業を進めていくと、子どもたちは疲れてくる場合があります。特に低学年だと集中力を保てる時間も限られてくるので、このように授業に動きを取り入れることは大切なことです。

### POINT 3 役割演技のこう

役割演技をする際には、その教材の世界観に引き込んでいくことが重要です。

私は、役割演技をする際にこのように言っています。

「これから、君たちにりすとかめになってもらいます。さて……、だんだんとりすとかめに見えてきましたね。3、2、1の合図のあとには、もう、りすとかめが目の前にいるようにしか見えません。いきますよ、……3、2、1、ハイッ！」

いかがでしょうか。このように、役割演技では子どもたちの気分を盛り上げるように言うのがこうです。

ここでは、役割演技を取り入れた実践例を紹介しました。このほかにも、「ぐっと深める」で紹介されているさまざまな学習方法を取り入れることで、授業が楽しいものになっていきます。ぜひ、積極的に取り入れてみてください。

## 2 使える！デジタルコンテンツ

教材研究をしていて、「教材を分かりやすく提示したい」「もう少し追加の情報が欲しい」と思うことはありませんか。実は、そうした願いを叶えるデジタルコンテンツがたくさん用意されています。教材研究を始める前

に、その教材にどのようなデジタルコンテンツがあるかを確認してみてください（本冊子p.11「デジタルコンテンツの活用」）。きっと役に立つコンテンツが見つかりますよ。

### デジタルコンテンツ（教科書QRコンテンツ）の例



動画  
動画

動画が収録されている教材があります。例えば、「剣道」や「茶道」などは、子どもにとって、ふだんの生活からはイメージしにくいものです。そこで、教材を読む際に動画とあわせて提示すると効果的です。



6年「25 人間をつくる道-剣道-」動画「剣道の礼」



外部リンク  
外部リンク

外部サイトにリンクしている資料もあります。例えば、5年「27 ミスター・トルネード 藤田哲也」では、気象庁のホームページのリンクに遷移し、竜巻のスケールについての解説を読むことができます。



5年「27 ミスター・トルネード 藤田哲也」  
外部リンク「気象庁ホームページ 藤田(F)スケールとは」



朗読音声、  
アニメーション

全教材に、本文の朗読音声が入っています。また、教材によっては、アニメーションが入っているものがあります。アニメーションは子どもの教材への理解を助けてくれます。



3年「5 きいてるかい オルタ」  
アニメーション「きいてるかい オルタ」



画像  
画像

画像もたくさん用意されています。画像はインターネットなどからも探すことができますが、デジタルコンテンツとして用意されているものは使い勝手がよいので、積極的に活用していきましょう。



2年「11 ぎおんまつり」画像「ぎおんまつりの ほこ」



### 私の実践

指導者用デジタルコンテンツを活用した6年「4 命のアサガオ」の実践例



④画像「命のアサガオ一種のふくろー」



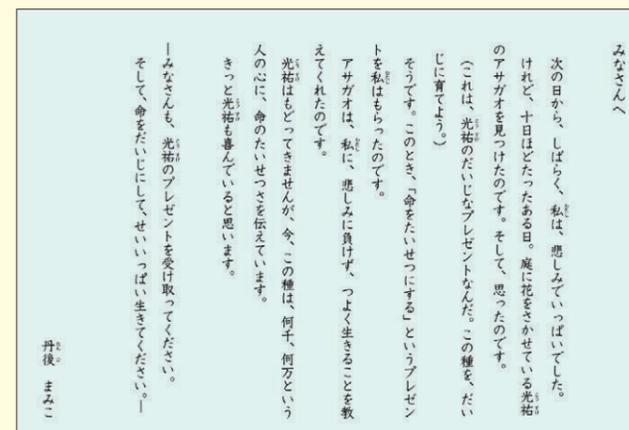
「命のアサガオ」の種が入った袋の画像です。教科書紙面には掲載されていませんが、教材を範読する際に指導者用デジタル教科書（教材）でこの画像を示し、袋に書かれた「命のアサガオのルーツ」の文章を確認しました。

実物の画像を見せることで、子どもたちはより真剣に考えることができました。



こうすけ 光祐くんのお母さんの思いを考  
える際に追加の資料として提示  
しました。

このメッセージは、学習者である子どもたちに直接語りかけるように書かれています。子どもたちは、光祐くんのお母さんの思いを感じながら、考えることができました。



④画像「光祐くんのお母さんからのメッセージ（本文）」



動画を終末で紹介しました。最後にもう一度、光祐くんのお母さんがメッセージを読んでいる動画を紹介することで、余韻をもって授業を終わらせることができました。

教師が「命は大切です」と言うよりも、動画のメッセージのほうがさらに説得力があります。



④動画「光祐くんのお母さんからのメッセージ」

今回紹介したような実話に基づく教材では、「いかに本物を示せるか」が授業成功の鍵となります。「命のアサガオ」の種の袋、そして光祐くんのお母さんの生の声は、子どもにとって最上の教材となります。これらの実物を示すことで、子どもは遠い世界の物語ではなく、自分の生活に結びついたお話として受け止めることができます。

# 3 コラム「心のベンチ」は学びの宝庫！

教科書に、コラム「心のベンチ」があるのをご存じでしょうか。「心のベンチ」は全学年、以下で紹介する5つのテーマである「いじめ」「情報モラル」「SDGs」「多文化共生」「自己肯定感」で構成されています。

どのテーマも現代的な課題を考えるうえで重要度の高いものとなっています。

コラムなので、授業中に直接活用されることは少ないかもしれませんが、教材を補足説明する際に活用したり、子どもが1人で読んで学んだりとさまざまに活用できる場面があります。ぜひ、もくじから「心のベンチ」を見つけて、読んでみてください。大人の私たちが見ても勉強になることがたくさんあります。

## 「心のベンチ」の例

### いじめ

低学年から高学年の発達の段階に合わせて、相手や学級の友達の気持ちを考えること、いじめの四層構造、いじめと法律との関係について掲載されています。身近な関係性からはじまり、徐々に社会性と結びつけて考えられる構成になっています。

教科書2年p.135「ふわふわ ちくちく」



### 情報モラル

低学年では著作権、中学年ではゲームやインターネット、高学年ではSNSや情報通信機器について掲載されています。情報通信機器が発達している現代において、これらは喫緊の課題と言えます。

教科書1年p.54「よい ことかな どうかな」



### SDGs

SDGsは17の目標から構成されているため、「心のベンチ」でも多様なジャンルを掲載しています。子どもは、世界の子どもたちの実態を知ること、実感をもちながら考えることができます。

教科書5年p.112「わたしたちの未来を守るために」



### 多文化共生

日本の祭りや地域のよさの紹介、世界の挨拶や世界各国の「子どもの日」、世界のことわざなどが掲載されています。多文化共生のため、自分の住んでいる地域や国のこと、また他国のことを知り、学ぶという構成になっています。

教科書6年p.177「みんな、自由。みんな、平等。」



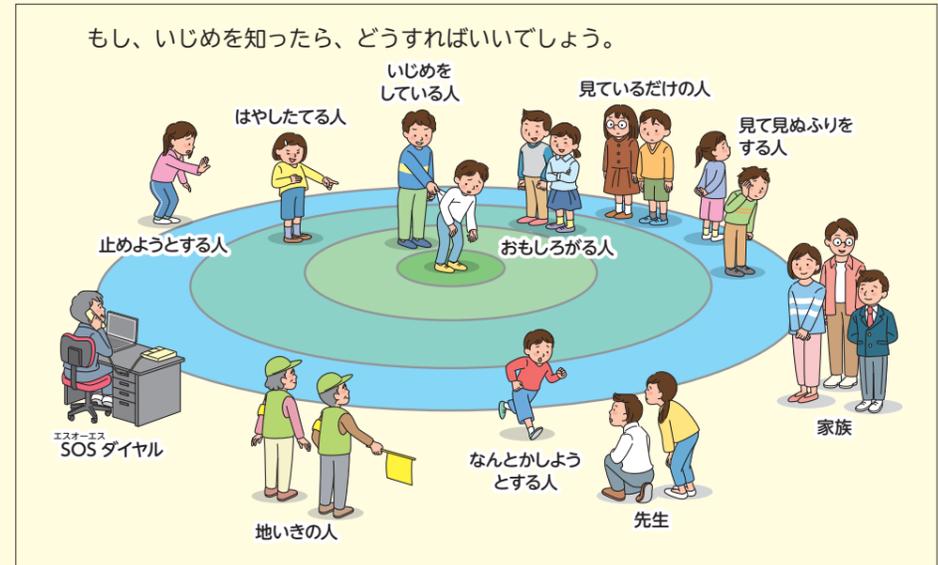
### 自己肯定感

子どもたちの自己肯定感を高めるために、多様な視点から考えられるようになってきました。「心のベンチ」では、読み物だけでなく、遊びながら自分で学ぶページもあります。3年の「おしゃべりすごろく」は、紙面の二次元コードからアクセスしてアプリでも楽しむことができます。

教科書3年p.35「おしゃべりすごろく」



## 私の実践 「心のベンチ」4年「なくそう！ いじめ」の実践例



教科書4年p.95 「なくそう！ いじめ」

「なくそう！ いじめ」のページは、いじめの四層構造について、上のイラストを見ながら確認し、理解できるようになっています。

このイラストでは、「被害者」「加害者」「観衆」「傍観者」が一目で分かるようになっています。また、悩んでいる被害者の周りには、家族や先生をはじめとする多くの人が関わってくれようとしていることが感じられます。

この4年の心のベンチ「なくそう！ いじめ」と「19 いじりといじめ」という教材は、教科書ではいじめ防止ユニット「人との関わり いじめをなくすために」として設定されています。今回は「いじりといじめ」の授業を行ったあと、後日、「なくそう！ いじめ」のページを確認しました。「いじめを

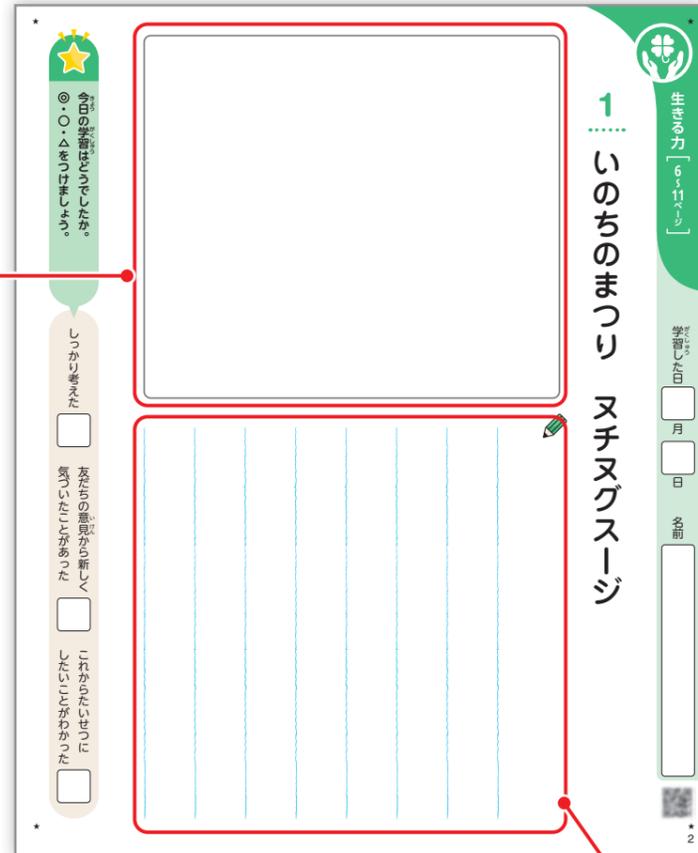
している人」が直接本人に暴言を吐いたり、嫌なことを言ったりする行為をしている人だとしたら、教材で「いじり」をしている横で笑っている友達は「はやしたてる人」に当てはまりそうです。学級の子もたちと、「はやしたてる人」や「見て見ぬふりをする人、見ているだけの人」もいじめを止める側に回ることができれば、いじめは止められそうだと確認ができました。

「心のベンチ」は、このように教材と組み合わせることもできますし、単独で使うこともできるおすすめのページです。ちょっとしたスキマの時間に子どもだけで読むこともできますので、ぜひ子どもたちに紹介しましょう。

# 4 別冊「道徳ノート」で学びを振り返る！

教科書『小学道徳 生きる力』には別冊の「道徳ノート」がついていますが、みなさんは活用されているでしょうか。「道徳ノート」にはあらかじめ教材ごとのページが準備されているので、準備の時間を短縮できます。また、デジタルコンテンツとしてノートのデータも2種（Word版、Googleドキュメント版）収録されており、オリジナルのワークシートに作りかえて授業で使うこともできます。

「道徳ノート」は、自分の学びを振り返るポートフォリオとしても機能します。学期の終わりに所見を書く際には、子どもの振り返りから、子どもが学んだことを読み取り、それをもとに書いていけばよいでしょう。子どもたち自身も、学期ごと、あるいは年度末などに、自分が書いた振り返りを読み返すことで、どのような学びがあったのかを振り返り、より深く学ぶことができます。



①「どうとくノート」(3年p.2)

上段はフリースペースとなっています。罫線が入っていないので、友達の考えをメモしたり、図やイラストを描きながら自分の考えをまとめたりすることもできます。

私がおすすめする使い方は、「考えてみよう」の発問に対しての自分の考えを書く方法です。

1 いのちのまつり  
ヌチヌグスージ



②「どうとくノート」(3年p.14)

学期ごとに振り返ることができるページも設けられています。(年3回)

下段には、1時間の学習を通して得た学びを書いていきます。しっかりと時間を確保して、子どもが自分の生活や学びに向き合えるようにしましょう。

子どもが教材に対して感じたことを書くことに加え、子ども自身の生活経験のことも踏まえて振り返りを書けるように声掛けをするとよいでしょう。

## おわりに

先生らしい楽しい授業を！

ここまで読み進めてくださったみなさんへ

この冊子を手に取り、最後まで読んでくださって、ありがとうございます。

道徳の授業に対する不安は、少し晴れてきたでしょうか。もし、授業をする際にまた悩むことが出てきたら、この冊子を読み返していただければうれしく思います。

さて、私たちが道徳の授業に対して力を入れても、子どもたちは一朝一夕で変わるものではありません。しかし、じわじわと子どもたちの実態が変わってくるのが実感できるのが道徳科だと思っています。

私が道徳の授業をしていて感じる子どもの成長とは、「自分のことに真剣に向き合うようになったな」とか、「友達の前で自分の考えをオープンにできるようになってきたな」ということです。

そして、これらの成長が見えてきたとき、その成長は道徳科の時間だけにとどまらず、さまざまな場面へと波及していきます。国語科や算数科など他教科での話し合いのときや、学級会で何かを決めるときなど、相手のことを考えて話し合いに臨んでいる子どもの姿が見えてきます。これはまさに「相手の立場に立って考える」という道徳科の特質ではないでしょうか。

先生方は道徳の授業をする際に、「ねらいはどうしよう」「発問はこれでいいのかな」「板書はどうすれば……」などと、たくさん悩んでいるかもしれません。でも、どれだけ悩んでいるとしても、先生が「授業を楽しむ心」だけは忘れないでほしい、と思っています。

先生が「楽しい」と感じながら行っている授業は、必ず子どもたちにも伝わっていくものだからです。

ぜひ、先生方には先生らしい授業を楽しみながら行ってほしいと思います。

いま、社会はVUCA（先行きが不透明で将来の予測が困難）の時代になってきていると言われています。先行きが見えにくい社会だからこそ、自分で「よりよい生き方」について考えることができる子どもたちをこの冊子の読者の先生方と一緒に育てていきたいと思っています。そのために、思いっきり道徳の授業を楽しんでいきましょう！

森岡 健太





文部科学省検定済教科書  
小学校道徳科用

令和6年度版

# 小学道徳 生きる力 1~6年

- 思考が深まり、学びをより確かなものにする新「道徳ノート」
- 学びへの意欲が高まり、授業が充実する教科書QRコンテンツ
- 授業づくりの強い味方!! 充実の教師用指導書  
(セット内容は下記をご覧ください。)



令和6年度版

## 小学道徳 生きる力 教師用指導書 1~6年

### セット内容

- 1 研究編
- 2 朱書・板書編
- 3 朱書・板書編デジタル版
- 4 指導者用デジタル教科書(教材)
- 5 デジタルデータ集(場面絵・顔絵など)
- 6 OCRサービス

※1、2は紙媒体、3~6はクラウド配信でのご提供となります。

小学道徳 生きる力  
教科書・指導書をフル活用!!  
子どもが生き生きとする道徳授業をつくる

日文教授用資料 [小学校道徳]  
令和6年(2024年)10月31日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社  
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5  
TEL: 06-6692-1261  
FAX: 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33746

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5  
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16  
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14  
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B  
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1  
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690